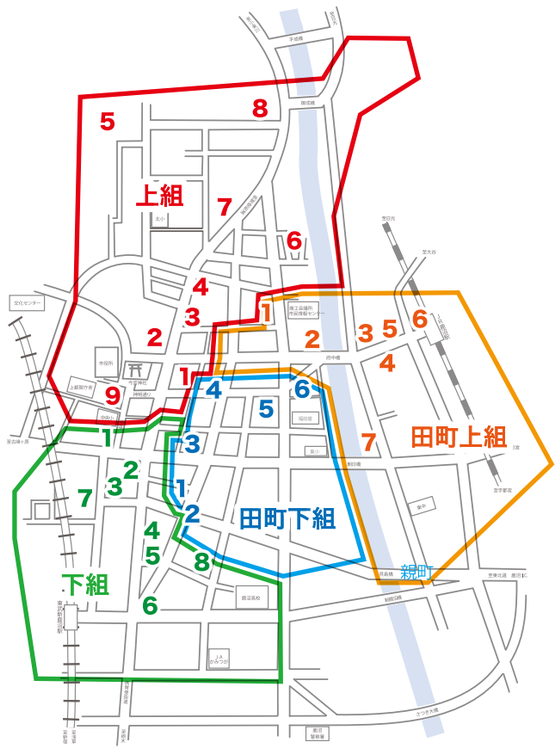
当番組・当番町（一番町）

昭和 14 年（1939）、 34 ある氏子町が上組・下組・田町下組・田町上組の四つの組に分けられました。 この４組がまわり番で祭りの当番をつとめます。 さらに、 この当番組の中から当番町が決められ、 その年の祭りの運営を取り仕切ります。 当番町は組内での順番によりつとめます。 このほか、 各組では、 組内をとりまとめる「親町」が決められていて、 上組：久保町、 下組：仲町、 田町下組：中田町、 田町上組：上田町となっています。

屋台行事は７月 20 日に行われる「縁故祭」から始まります。 ９月最初の土曜日には、「付け祭り」に屋台を繰り出す意思を表す「ぶっつけ」と奉告祭が行われ、 参加する氏子町が確定します。 この行事の後、 当番町は全町会議などを開催し、 細部の打ち合わせを行って本祭に備えます。

10 月上旬、今宮神社例大祭が執行され、各氏子町は、「付け祭り」として、自慢の彫刻屋台を自町内で曳き廻し、午後に行われる神社への繰り込みのため、「しきたり」に従って、 他町の庭先拝借の挨拶を交わしながら、 神社へと進みます。

繰り込みは、 当番町の合図により、 一番町から決められた順番に従って繰り込みます。 また、 境内における提灯への灯入れ、 囃子入れ・止め、 繰り出しなど、 すべてが当番町の「しきり」により行われます。



令和５年度
当番町（一番町）

下組

親町	仲町
1	麻苧町
2	石橋町
3	下材木町
4	寺町
5	蓬莱町
6	鳥居跡町
7	三幸町
8	万町

田町下組

親町	中田町
1	下田町２丁目
2	下田町１丁目
3	下横町
4	銀座１丁目
5	末広町
6	東末広町

田町上組

親町	上田町
1	文化橋町
2	朝日町
3	府中町
4	府所町
5	府所本町
6	上野町
7	貝島町

上組

親町	久保町
1	銀座２丁目
2	天神町
3	上材木町
4	千手町
5	戸張町
6	睦町
7	泉町
8	御成橋町
9	今宮町

令和５年度 當番町・壱番町 下 組 「蓬莱町」

蓬莱町の町名は、 町内結成の時に命名されたと言います。 蓬莱とは中国の想像上の山である蓬莱山のことで、 その山は東の海上にあり、 仙人が住む不老不死の山と伝えられています。
音は「宝来」にも通じ、 嘉名としてよく各地に見られるので命名されたようです。 蓬莱山はまた、富士山のような霊山の美称でもあり、 当町の場合、 日本の名峰富士山が遙かに望まれ、 近くには花岡の富士山（ふじやま）もあって、 町名由来の一因でもあったかもしれません。

蓬莱町
祭典委員長　文挟　寛
若衆頭　山口　直人

蓬莱町　白木造白木彫刻屋台

蓬莱町には明治期に造られた屋台がありましたが、明治40年3月の火災で焼失し、その後、加園・文挟（日光市）・徳次郎（宇都宮市）などから屋台を借りて付け祭りに参加してきました。

現在の屋台は、油田町の旧家にあった屋台を買い受けたものを元に、寺町の大工　半貫文太郎が寺町の屋台を模して昭和30年に白木造の花屋台として製作したもので、油田町から買い受けた屋台の彫刻で飾りました。鬼板と懸魚は「飛竜」、後障子回りは「菊と孔雀」で、彫師は上久我の神山政五郎（菊政）と伝えられています。

平成4年から、富山県井波町　彫刻師　笹川無門に依頼し、脇障子の「鷹」、高欄下の「竜」、欄間の「十二支」、車隠し・方立などが取り付けられ、令和4年に水引・軒飾彫刻を取り付けました。